

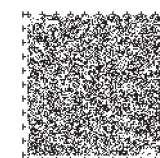
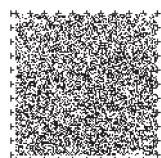
05

暮らし | 社会インフラ

もしもの時に備える防災力と 日常を支える公共サービス。 強くしなやかなインフラの未来

〔活動紹介〕

- 生成AIと実空間メタバースによるデジタル避難訓練 | イオンモールいわき小名浜(福島県いわき市)
- 飾磨小学校合同 命を守る! 自助・共助の避難訓練 | イオンモール姫路リバーシティ(兵庫県姫路市)
- レイクタウン防災フェス2024 | イオンレイクタウン(埼玉県越谷市)
- 広島市段原地域包括支援センター | 広島段原ショッピングセンター(広島県広島市)
- 佐野新都市行政サービスセンター | イオンモール佐野新都市(栃木県佐野市)
- 大垣市南部サービスセンター | イオンモール大垣(岐阜県大垣市)
- つがる市立図書館 | イオンモールつがる柏(青森県つがる市)
- 富津市立図書館 | イオンモール富津(千葉県富津市)



生成AIと実空間

メタバーズによる

デジタル避難訓練



どんなプロジェクト？

最新のデジタル技術を活用した避難訓練。避難を支援するスマホアプリと避難所でアドバイスをするAIアバターを住民の皆さまに体験していただきました。

防災DXを取り入れ、安心して
住み続けられる地域をつくる。



デジタル避難訓練(2024年3月3日実施)

イオンモール周辺の住民の皆さま39名を含む140名が参加。リアルタイムで周囲の危険状況がわかる「避難支援スマホアプリ」を確認しながら避難を行いました。



開催地域：福島県いわき市

1年を通じて温暖な気候のいわき市は、“東北のハワイ”と称されています。モールがある小名浜地区には水族館や遊覧船が楽しめる「アクアマリンパーク」があり、年間を通してさまざまなイベントも実施される賑わいのある港町です。

ここがユニーク！

災害対策本部が避難の様子をリアルタイムで確認。アプリからはリアルタイム災害情報も報告可能。アプリを通じて災害の状況に合わせた避難誘導ができます。

開催施設：イオンモールいわき小名浜

「小名浜港背後地震災害復興土地区画整理事業」地内に位置。いわき市の掲げる「復興のシンボル」として、防災モールとしての機能を担うとともに「活気溢れる都市拠点づくり」に寄与することをめざしています。

基本商圏：車45分圏 約14万世帯 約37万人
出店店舗数：約130店舗(専門店舗)
敷地面積：約44,000㎡(隔地駐車場含む)
駐車場台数：約1,300台
オープン日：2018年6月15日



Life Design Developer
いわき市 × 東北大学 災害科学国際研究所 × イオンモールいわき小名浜



イオンモールいわき小名浜
オペレーション担当
廣瀬 萌々子

いわき市 危機管理部 災害対策課
主任主査 兼 地域防災係長
本田 文徳 さま

東北大学 災害科学国際研究所
津波工学研究分野
特任教授
大石 裕介 さま

イオンモールいわき小名浜
オペレーションマネージャー
川口 洋樹

「逃げ遅れゼロ・災害死ゼロ」
防災力向上への挑戦

本田さん：いわき市では、東日本大震災や令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生しました。その経験を教訓とし「逃げ遅れゼロ・災害死ゼロ」の危機管理モデル都市をめざして防災力向上に努めています。そのためには「自助」「共助」「公助」の力を高めて結集すること、そして産学官の連携が重要になります。イオンモールいわき小名浜とも、防災協定を結んでいますね。

川口：そうですね。私たちは、津波発生時における緊急一時避難施設、情報発信拠点としての役割を担えるモールづくりを行っています。またハード面だけでなく、2021年から半年に1回、いわき市や近隣住民の皆さまとともに津波避難訓練を実施しています。熱心な参加者が多く訓練の手応えを感じる一方、より実践的で防災意識を高められる工夫が必要だと感じていた時に、今回の実証実験のお話を伺いました。

大石さん：防災は、ほかの分野に比べてデジタルの活用が遅れています。私は、生成AIやメタバーズといった最先端の技術を導入し防災のあり方を変革していく、防災DXの推進を目的とした研究開発を行って

います。その中で、リアルタイムで周囲の危険状況が分かり避難経路が矢印で示される「避難支援スマホアプリ」と、避難所生活のサポートが受けられる「AIアバター」について、実際に住民の皆さまに使用いただき、実用化をめざす上で有効性の検証を行いたいと考えていました。

地域にお住まいの方や
観光で訪れた方にも
安全・安心を届ける

大石さん：東日本大震災を振り返ると、避難して安全を確保するのは個人の行動ではあるものの、本田さんもお話されていましたが「共助」、つまりコミュニティが重要だということが分かります。そういう観点で、地域の皆さまが集う場であり、地域との共創を掲げているイオンモールと一緒できないだろうか考えたのが、ご相談のきっかけです。

川口：お話を聞いた時は、とても光栄なことだなど。いわき市にお住まいの皆さまや観光で来られる方の安全・安心を守ることや、日本の防災DX推進の一助になれる可能性を感じました。

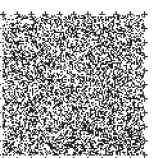
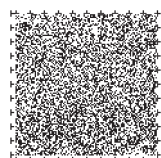
本田さん：私も期待感が大きかったです。

今回の「避難支援スマホアプリ」は、アプリの画面に避難経路が矢印で示されるシンプルなもので、とても分かりやすいのが良いですね。住民の皆さまの効率的な避難や、観光で訪れた方など地理に詳しくない方でも速やかに避難できる点が特長であり、この地域に適した訓練であると考えました。



「避難支援スマホアプリ」画面

実空間に情報を付与できる、実空間メタバーズ。「避難中に危険な場所が通知されると、いわき市の災害対策本部に連絡が入り、その情報をもとに安全な避難経路を矢印で示す」仕組みを準備し、避難訓練当日に検証を実施。



いわき市 × 東北大学 災害科学国際研究所 × イオンモールいわき小名浜

「またやりたい」
最新技術の活用が
訓練の付加価値に

本田さん:訓練に向けて、大石先生や川口さんと密にコミュニケーションを取りながら準備を進めましたね。また、スマートフォンを見ながら避難する「歩きスマホ」になるため、いわき東警察署の方と事前協議を行い、当日もイオンモールの皆さんや警備の方にサポートをいただき、安全管理を徹底しました。

川口:住民の皆さまへの事前説明会では、幅広い年齢層の方に前向きにチャレンジいただけるよう、分かりやすい説明を心がけました。実際、アプリをインストールするところ以外はスムーズでしたね。



リを使って避難された方は、そうでない方と比べて歩く距離が200m以上短く、効率的に避難できたという結果が出ています。先進的な取り組みをいわき市で実施し、防災DXを推進する必要性を確認できたこと、それを多くのメディアを通じて全国の皆さまに届けられたことが喜びです。

大石さん:川口さんを中心にイオンモールの皆さんが分かりやすく説明や誘導してくれたので、住民の皆さまはもちろん、メディアの方にも訓練の狙いが正しく伝わったのではないのでしょうか。

川口:災害時はパニックが想定されるので、より一層、発信力や統率力を高めていきたいです。

防災力向上へ
これからも挑戦は続く

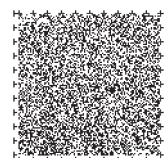
本田さん:これからもいわき市の防災力を高めるために、防災DXを含めて挑戦を続けていきたいと考えています。そして、地域の活性化はもちろん、防災の観点でもイオンモールと連携していければと思います。

川口:今回いわき市の職員の皆さま、小名浜

消防署、地域の消防団、東警察署、いわきコンピュータ・カレッジや福島高専の学生さんなど、多くの方たちと力を合わせて大きなトラブルもなくスムーズに運営できたことに安堵しています。今後とも、地域の皆さまとともに挑戦し、防災訓練の新しいスタンダード構築につなげられたらと思います。私は全国転勤の可能性がある身ですので、行く先々で今回のような挑戦をしたいと思います。大石先生、引き続きよろしくお願いします。



大石さん:ぜひよろしくお願いします。今回被災経験から防災に力を入れているいわき市の皆さまとともに実施し、感想や意見をいただけたことが一番の成果です。そして、各地域のイオンモールで今回のような新技術を活用してもらえれば、日本の防災を変えられるのではないかという気付きがありました。技術は、まさに日進月歩。いかに現場の課題に結びつけて防災を変革していくか、私も挑戦を続けていきます。



暮らしに関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

避難訓練・防災フェス



万が一の災害を想定したリアルな体験を通じて地域の皆さまとともに防災意識を高める。

飾磨小学校合同 命を守る！自助・共助の避難訓練

イオンモール姫路リバーシティ | 兵庫県姫路市

2024年11月、これまで職業体験などの交流がある飾磨小学校の教員・児童の皆さまとともに、津波避難ビルに指定されている当モールへの避難訓練を実施しました。当日は、高学年の子が低学年の子と手をつないで静かに避難しており、モール社員も避難受入の課題を確認しながら無事に700名の避難を成功させることができました。



レイクタウン防災フェス2024

イオンレイクタウン | 埼玉県越谷市

子どもから大人まで、楽しみながら防災の大切さを体感できる市民参加型防災イベントをイオンレイクタウン全館(mori、kaze、LakeTown OUTLET、イオンスタイルレイクタウン)で毎年5月に開催。2024年は、越谷市消防局をはじめ、行政、地域団体、企業など約40団体のご協力のもと、2日間で約8万人(累計)の方に参加いただきました。



共創パートナー：特定非営利活動法人ピーグッドカフェ 副代表理事 堀田 晃弘さま

PROJECT | CASE 03

さまざまな行政サービス



“お買い物ついで”に行政サービス手続きや相談、学びを深められる場所をつくる。

広島市段原地域包括支援センター

広島段原ショッピングセンター | 広島県広島市



大垣市南部サービスセンター

イオンモール大垣 | 岐阜県大垣市



佐野新都市行政サービスセンター

イオンモール佐野新都市 | 栃木県佐野市



つがる市立図書館

イオンモールつがる柏 | 青森県つがる市



富津市立図書館

イオンモール富津 | 千葉県富津市

